

白石小

防犯ベルの使い方を模擬訓練

有効活用防犯ベル

11月6日、白石小学校（吉田雄治校長）では、先ごろ原町警察署から貸与された防犯ベルを有効に活用するため、実際にどんな時にベルを使えばいいかを訓練する授業が行われました。

訓練では、不審者に変装した先生が、代表の子供たちに声をかけ、手をつかみ無理やり連れ出そうとすると、子どもたちは首にかけたブザーをすばやく鳴らし、周りに異常を知らせていました。子供たちは、先生の変装に最初は笑っていましたが、「実際の事件を想像してください」という指導に、真剣に代表の児童の行動を目で追い、防犯ベルの使い方について学んでいました。



▲先生が変装して迫真の演技

最後に、ベルをいわずらで使わないこと、登下校の時は必ずベルをつけることをみんなで約束していました。



▲税金の重要性を学んだ教室

もしも税金がなかったら？

草野小租税教室

草野小学校租税教室は、6年生を対象に11月21日に行われ、子供たちが税金の大切さについて学びました。

この教室は納税意識の高揚などを目的に、子供

の頃から税金について理解してもらおうと、学校からの要望に応じ、税務署と市町村が協力して行っているものです。

この日は、役場住民課から職員2人が草野小学校で、講師を務めました。

授業では、税金がなくなってしまうった世界のアニメビデオを見た後に、子供たちはその感想を発表し、税金が現代社会に占める重要性を話し合っていました。

また、職員から自分たち一人につき、毎月7万円税金がかかっていることや、日頃使う教科書なども税金でまかなわれていることを聞いた子供たちは、驚きの声を上げるとともに改めて税金の必要性を認識していました。

最後に、1億円の重さ体験も行われ、子供たちは職員が用意した1億円の札束と同じ重さの紙束を持ち上げ、その重さに驚いていました。



▶1億円は重い！